

## 8 評価にかかわるQ & A



### Q1:「関心・意欲・態度」の観点の評価に当たって留意することは、何ですか。

- A: ○ 「関心・意欲・態度」の観点は、指導要録における各教科の「評価の観点及びその趣旨」「学年別の評価の観点の趣旨」を踏まえ、評価規準を設定することが大切です。具体的には、進んで学習活動に取り組んだり、意欲的に課題解決をしようとしていたりしているかなどについて評価することが必要です。
- 単に活発に活動しているといった表面的な行動を評価するだけでは、教科で期待される「関心・意欲・態度」を評価したことにはなりません。また、提出物の有無、発言や挙手の回数だけで評価するなど、一面的な行動の現れだけで評価することは避ける必要があります。

### Q2:毎時間の授業において、観点ごとの評価を行う際の留意点は、何ですか。

- A: ○ 授業で評価する観点は、指導と評価の計画により設定されます。その上で、指導と評価の計画に基づいて、観点ごとの評価を計画的に行います。
- しかし、毎時間、全ての観点について評価するというものではありません。
- 作業に取り組む姿勢の観察など、授業の中で評価することができる場合はその場で評価します。授業の中で評価をすることが難しい場合は、振り返りカードやワークシートを授業後に回収して評価に生かします。

### Q3:「努力を要する」状況(C)と判断した児童・生徒に対する指導の具体的な手立ては、何ですか。

- A: ○ 毎時間の評価結果に即して、教師が「ほめる」「励ます」「アドバイスを与える」「コメントを記入する」など児童・生徒が意欲や具体的な課題をもてるようにします。
- 次時の導入場面で既習事項を確認する時間を設定したり、既習のワークシートを再度活用したりするなど、学習展開の見直し、改善を図ります。
- 特別な時間を確保して補充指導等を行います。

### Q4:必修教科における習熟の程度に応じた指導において評価の際に留意することは、何ですか。

- A: ○ 必修教科(小学校においては各教科)における評価は、学習指導要領の目標と内容及び指導要録の評価の観点を基に行います。習熟の程度に応じた指導において、学習集団ごとに学習する内容や教材が異なる場合でも、児童・生徒の学習状況の評価は、同じ評価規準で行います。
- 発展的な学習をすれば「A」、しなければ「B」にするとといった評価の考えは適切なものとはいえません。

**Q5:評価の観点の重み付けについて留意することは、何ですか。**

- A: ○ 4観点（国語は5観点）についてバランスよく評価を進めていくことが大切です。単元の特性によって各観点の重み付けを変えるかどうか、単元相互の間で重み付けを行うかどうかなど、あらかじめ学校内で共通理解を図り、指導と評価の計画の中に明確に位置付けられている必要があります。
- 重み付けについては、教科を超えて校内で共通化を図り、どのような方針に基づいて重み付けを行うのかについても、児童・生徒・保護者に説明できるようにしておくことが重要です。

**Q6:学校を休みがちな児童・生徒の評価・評定に当たって配慮することは、何ですか。**

- A: ○ 児童・生徒の状況に応じて、学校が作成した指導計画に基づく課題を与え、学習を促すようにします。
- 養護教諭などの他の教師、保護者、関係諸機関から児童・生徒の学習状況の情報を得るようにします。
- 指導計画に基づく、学習の成果としての作品などを分析して評価の参考にすることができます。
- 児童・生徒自身のよい点や可能性、進歩の状況の評価する個人内評価を重視し、個々の学びの成果やよさを積極的に伝えるようにします。

**Q7:保護者や生徒に説明する際の具体的な内容は、何ですか。**

- A: ○ 「目標に準拠した評価」や「観点別学習状況の評価」とはどういうものか。
- 各教科等において、どのような観点や規準に基づいて、どのような方法で評価を行うのか。また、どのように評価の総括(評定)を行うのか。
- 各児童・生徒はどう評価・評定されたか。単元や題材ごとの結果、及び学習の過程における評価の結果はどのようであったか。
- 評価規準や評価方法等について、実践の経験やその成果を踏まえ、どのように見直しを図ったか。

**Q8:評価の信頼性を高めるために留意することは、何ですか。**

- A: ○ 学校全体で取り組まなければなりません。各教科等の指導において、各教員がどのような評価規準を作成し、児童・生徒の学習状況をどう評価したか、またその評価結果をどのように指導の工夫・改善等に生かしたのかなど、互いに情報を共有するとともに、自校における評価の考え方や方法を共通理解し、信頼性を高めるようにします。
- 国や都などが実施する広域的な学力調査の結果等も活用して、児童・生徒の学習の状況を把握し、教育課程、指導の在り方、評価方法等について改善を図ります。